

私は塾や予備校に通うことなく受験に挑みましたが、学校の授業や課外授業等で十分に戦えたと思います。授業は先生方が作成したプリントやスライドを使って行うものが多かったです。課外授業では、自分に必要な講座を選択して受けていました。また、自習室は3つあり、定期テスト前や受験期に多くの生徒が利用しています。自分で自習をしていて分からないところがあれば先生に質問することができます。高校から入学する生徒は先生方との関係が浅いため質問をするのに勇気がいりますが、優しく丁寧に答えてくださるので恐れる必要はありません。言い方は悪いですが、有効に活用すべきだと思います。

新型コロナウイルスの蔓延により、学校行事、部活動ともに、多くの制限がかかった状態が長く続きました。そんな中でも、多くの部活動では、先輩と後輩という肩書はあっても、比較的穏やかな上下関係のもと、活動が行われていた印象があります。私の所属していた陸上競技部も、同級生が少なかったことありますが、先輩たちとご飯を食べに行ったり、後輩の進路の相談に乗ったりと、ただ練習をするよりも有意義な時間を過ごせました。また、学校行事、主に文化祭の話になりますが、実行委員会の生徒が定めたガイドラインに従いながら、どうすればクラスの出し物を良いものにできるかクラスメイトと話し合い、工夫しながら取り組むことができました。茨高の生徒は想像力も豊富で、頭の回転も速いため各クラス、個性の出た作品が多いと思います。

他の私立高校と比べて、茨高は比較的少人数で1学年が構成されているため、いわゆるマンモス校よりも自分には合っていると思った為、茨高を選びました。おかげで、全員とはいきませんでした、多くの同級生と交流し、仲良くなることができました。また、茨高は中高一貫校であり、約3分の2が中学校から持ち上がりの一貫生になります。3年生になって初めて一貫生と私たち高入生が同じクラスになるまでは、部活動や委員会活動、文化祭など以外ではお互いに交わる機会はほとんどないため、仲良くなれるか非常に不安でしたが、みんないい人たちでとても安心しました。どうしても最初の頃は茨中を卒業した一貫生の方が学校生活に慣れているため、高入生からすると何となく近寄り難い気がしてしまいましたが、全然そんなことないので安心してください。むしろ、高入生にはない考えを持つ一貫生と話すのはとても面白いです。そうは言っても、やはり2年間、主に学校生活を共にする高入生の絆はいくら一貫生と仲良くなったとしても強いように感じます。

大学進学後は海外への留学をして、自分の視野を広げたいと思っています。そのために、大学合格をゴールとするのではなく、入学後も勉学に励みたいと思います。そして、卒業後については、はっきりとしたビジョンはまだ見えていませんが、大手企業に就職して、自分の生活を豊かにしたいと思っています。